

議会だより

港南区版

発行:2022年3月30日

令和4年度
第1回定例会報告

編集責任者

横浜市会議員 **かじお あきら**

公式HP



誰もが自分らしさを発揮し、 いきいきと安心して暮らすことができる街・横浜の実現に向けて

～山中竹春市長就任後はじめての令和4年度予算案が可決～

令和4年度横浜市会第一回定例会が1月31日から3月23日までの52日間にわたり開かれ令和4年度予算について審議されました。今回提案された予算案は「感染症対策の強化」と「横浜経済の回復」を最優先に、病床の拡充や自宅療養者の見守り支援などによる医療提供体制の強化、市内中小企業の皆様、生活に困難を抱える皆様への支援など、あらゆる対策が盛り込まれ、全会計総計3兆8,074億円(一般会計1兆9,749億円、特別会計1兆2,484億円、公営企業会計5,842億円)の予算案が可決されました。※予算詳細に関しては裏面をご覧ください。

梶尾明議員(港南区)が会派を代表して令和4年度横浜市一般会計予算並びに関連議案賛成討論に登壇しました。(3月23日)

(以下発言抜粋)

昨年の10月、我が立憲民主党横浜市会議員団は、市民が安心して暮らし続けられる横浜としていくために、過去と今を見つめ未来にどのように繋げていくべきかを真摯に議論・検討し、重点13項目、局別287項目、区別235項目からなる予算要望・提言書を山中市長に提出しました。この予算要望提言書に基づき、立憲民主党横浜市会議員団の各議員が、予算代表、関連質疑、局別、総合審査、常任委員会において予算案への反映状況を確認しながら審査してまいりました。

【感染症対策】

感染症対策では、新たに感染症対策・健康安全室を設置し、自宅療養者の支援やクラスター対策などを迅速に行える体制を整えたことは、市民の皆様の安心につながるものとして評価するとともに大いに期待しています。経済対策では、相談窓口の強化や資金繰り支援の充実など厳しい経営環境に置かれている中小企業の皆様の事業継続を支援する取組と合わせ、脱炭素化やデジタル化を推進する助成制度、戦略的な企業誘致やスタートアップの創出・成長支援などの取組は力強い横浜経済の再生につながるものとして評価します。今後も、また新たな変異株が出現することが考えられ、コロナ禍の終息はまだ見えませんが、新型コロナウイルス感染症への万全の体制を確保し、市民の安全、安心につなげていただくようお願いいたします。

【子育て支援・教育】

市長は4年度予算の柱として、暮らしやすく、誰もがWELL-BEINGを実現できるまちづくりを掲げ、特に子ども関連予算については「すべての子どもたちの未来を創るまちづくり」と、その思いを示されました。横浜で生まれ、暮らし、育っていく子どもたち、また、そのそばで支える親や教職員、地域社会、子どもに関わるすべての市民が暖かく成長を見守ることのできるまちを目指す、そういう決意の表れを感じました。子育て世代を呼び込み、定着を促すことは、地域経済の面でも、街の賑わいの面でも、都市経営の原点であり、この世代が安心して生活でき、横浜に愛着と誇りをもって暮らし続けられる環境を整えることは大変重要です。また、2,800人を超える保留児童対策を図るため、昨年12月には「保留児童対策タスクフォース」を設置し、区局の垣根を越えた議論が進められているところです。しかしながら、依然として、お子様を預けられずにお悩みのご家庭もあります。調査・分析をしっかりと進めていただくことはもちろんですが、数字の奥にある多様なニーズに目を向け、ぜひ市民の生活に寄り添った施策展開を期待しています。

【DXの推進】

市長は、DXによる未来の横浜の姿を、「子育てや福祉など、それぞれのニーズにあったサービスが届けられ、人々のつながりと活発な地域活動が育まれる、住みや働きやすい、人々が集まる未来の横浜」とご答弁されました。デジタル技術を最大限活用することで、大都市横浜で暮らす市民一人ひとりを支える、あたたかく、血のかよったデジタル・トランスフォーメーションを実践していただけると期待しています。さて、市長は就任以来の短い期間で「横浜DX戦略」を打ち出し、また、体制面では現在の26人から100人を超える思い切った組織の再編・増強を行うとともに、「デジタル・デザイン室」を新設されました。予算編成では、各種基幹系システム構築の着実な推進に加え、防災・子育て等市民サービスへのデジタル技術活用、創発・共創の推進やワークスタイル改革の推進など、各方面にわたり総額約120億円規模の事業へと拡大を果たすなど、山中市長のカラーが打ち出された戦略を示されたことを高く評価したいと思います。横浜は開港以来、その「進取の気風」をプライドに、幾多の困難を乗り越えてきましたが、少子高齢化・人口減少社会時代の課題解決にDX推進は不可欠です。力強く推進していただきたいと思っています。

【脱炭素】

今定例会の質疑において、市長は「必ず実現させなければいけない」重要な課題であると、その意気込みを語られました。2050年までに脱炭素化を達成するという「Zero Carbon Yokohama」、その実現に向け2030年には、国の削減目標である46%を上回る「50%削減」をするとの、チャレンジングな目標を表明されましたが、これは温室効果ガス削減の推進を公約に掲げている市長だからこそ、大きな決断であったかと思います。そして、実現に向けた最初の一步として、市役所の率先行動を徹底し、脱炭素社会形成に向けた本気度を示すことが大切です。ありとあらゆる場面で環境行動に取り組むようお願いいたします。

【財政ビジョンや行政運営の基本方針】

将来にわたって安定した市政運営と財政の健全性の維持に向けて、子どもたちや将来の市民のため、財政ビジョンや行政運営の基本方針を示されることは、持続可能な市政運営を行おうとする市長の強い責任感の表れであると受け止めています。また、特別自治市制度についても、このような課題を解決する手段として大変重要であると考えています。市の規模・能力に見合う権限と財源をもつことで、より充実した行政サービスの提供が期待されるわけですが、国への制度創設の働きかけや県との協議など引き続き強い姿勢で臨んでいただき、早期実現に向けてご尽力いただきたいと思います。

【公約実現への道筋】

「3つのゼロ」や中学校給食をはじめ、コロナ対策、健康・医療、デジタル化、防災対策など、市民生活全般にわたり、きめ細やかな公約を掲げ当選されました。選挙で市長を支持した市民の皆様も、そうでなかった市民の皆様も、横浜市が『誰もが自分らしさを発揮し、いきいきと安心して暮らすことのできる街』になって欲しいと願う気持ちは一緒だと思います。現在、検討されている次期中期計画では、こうした市民の願いに応えるため、横浜市が「目指すべき都市像」を市民と共有し、そこへ至る戦略や政策といった道筋をしっかりと示していただくことを期待しています。

※ 全文はかじおあきらホームページ
kajio.infoでご覧いただけます。

梶尾明議員(港南区選出)、予算第二特別委員会局別審査で資源循環局と交通局に質問

冒頭、コロナ禍において止めることなく、ごみ回収業務に従事していただいている資源循環局の皆様、休むことなく市営地下鉄、市営バスの運行に従事していただいている交通局の皆様に感謝を申し上げ、令和4年度予算案について質問しました。



交通局に質問する梶尾明議員(港南区選出)

資源循環局 (2月25日)

保土ヶ谷工場の再整備、ごみ焼却工場の排ガスから分離・回収した二酸化炭素の利用、港南事務所の移転、コロナ禍での家庭ごみ収集、ごみ収集車の次世代自動車の現状、分別の広報啓発、食べきり協力店、上大岡駅周辺におけるまちの美化の取組について質問しました。



交通局 (3月7日)

持続可能な経営の実現、脱炭素社会の実現に向けた取組、キャッシュレス化の推進、貸切バス事業の推進、市営地下鉄の非常時の対応、マスタードライバー制度、職員の新型コロナウイルス感染症予防対策、優秀な人材の確保について質問しました。

横浜市会議員梶尾明(港南区選出)
の詳しい情報は→



【特集】私たちの税金はどのように使われているの？



横浜市の予算って何？
どうやって決まっているの？



予算とは1年間の市の歳入(収入)と歳出(支出)の見積りです！
市長が予算の案を作成して、議会で審議され決まります。



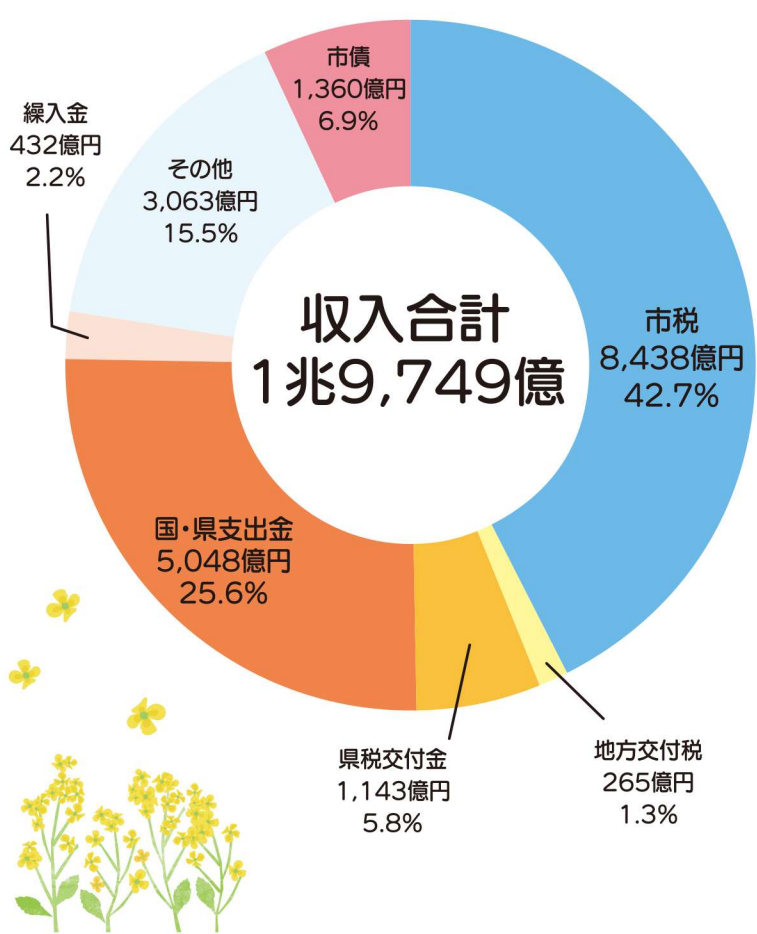
どんな予算があるの？



横浜市の予算は使い道や収入源の違いから「**一般会計予算・特別会計予算・公営企業会計予算**※1)」の3つに分類しています。
市税は主に「一般会計予算」に充当され、**市民生活の根幹を支える大きな役割を果たしています**。今回は令和4年度の歳入(収入)と歳出(支出)の概要と市民生活の視点に立って解説いたします。

(※1) 一般会計予算…福祉、医療、教育や道路、公園の整備など基礎的な行政サービスを行う会計。
特別会計予算…特定の事業を特定の収入によって行っていくため一般会計から独立させた会計。
公営企業会計予算…地下鉄、バス、水道、病院など民間企業と同様に事業収益を上げ運営をしている会計。

【令和4年度一般会計予算の内訳】



市税

収入に応じて個人や市内に事業所がある法人が納める市民税や、土地や家などを持っている方に納めていただく固定資産税など、市民の皆さんにご負担いただくお金

地方交付税

地域ごとの状況の違いによって生じる地方税収の差などを調整するため、国から財源が足りない地方公共団体に交付されるお金

県税交付金

いったん県税として徴収してから県内市町村に配分されるお金

国・県支出金

特定の事業に対して、国、県から使いみちを指定して交付されるお金

繰入金

基金の取り崩しなどにより繰り入れるお金

市債の中身

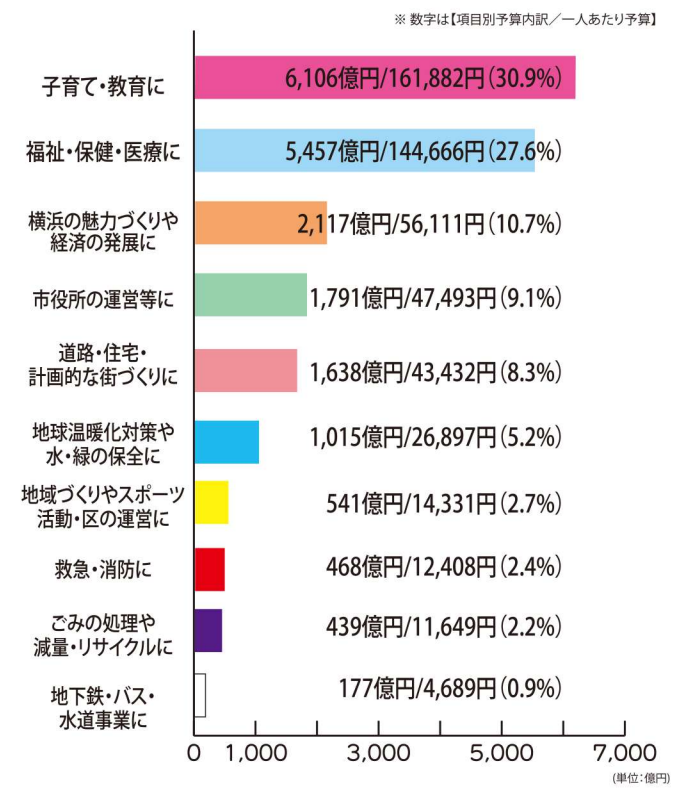
建設地方債 965億円: 道路や公園、市民利用施設などの整備のために借り入れるお金
臨時財政対策債 395億円: 国が地方交付税として配るお金で足りない分を、市が代わりに借り入れるお金(返済のためのお金は、将来の地方交付税の計算に加算されて交付されることになっています)

令和4年度一般会計予算 市民一人あたり予算は「523,558円」

【各局別・項目別予算内訳と市民一人あたりの予算】

局・統括本部名	令和4年度	令和3年度	比較		令和4年度 構成比(%)
			増▲減	増減率(%)	
温暖化対策統括本部	838	868	▲30	▲3.5	0.0
デジタル統括本部	1,822	600	1,221	203.4	0.1
政策局	19,048	19,411	▲362	▲1.9	1.0
総務局	31,745	30,410	1,334	4.4	1.6
財政局	238,814	212,107	26,707	12.6	12.1
国際局	1,634	1,532	102	6.7	0.1
市民局	49,786	52,279	▲2,493	▲4.8	2.5
文化観光局	22,626	18,472	4,155	22.5	1.1
経済局	157,704	208,107	▲50,403	▲24.2	8.0
こども青少年局	329,569	319,370	10,199	3.2	16.7
健康福祉局	529,122	499,362	29,760	6.0	26.8
医療局	11,372	12,137	▲765	▲6.3	0.6
環境創造局	80,254	79,107	1,147	1.5	4.1
資源循環局	42,219	42,838	▲619	▲1.4	2.1
建築局	25,070	24,272	798	3.3	1.3
都市整備局	21,001	23,756	▲2,755	▲11.6	1.1
道路局	79,024	136,745	▲57,721	▲42.2	4.0
港湾局	12,033	13,429	▲1,396	▲10.4	0.6
消防局	43,819	41,314	2,505	6.1	2.2
会計室	1,537	1,523	14	0.9	0.1
教育委員会事務局	268,258	261,356	6,902	2.6	13.6
選挙管理委員会事務局	2,833	3,479	▲646	▲18.6	0.1
人事委員会事務局	268	267	1	0.3	0.0
監査事務局	417	424	▲7	▲1.6	0.0
議会局	3,061	3,096	▲35	▲1.1	0.2
予備費	1,000	1,000	-	0.0	0.0
合計	1,974,874	2,007,261	▲32,387	▲1.6	100.0

注1: 3年度の一般会計予算額から特殊要因である(一財)横浜市道路建設事業団関連支出(51,930百万円)を除いた場合の実質的な予算額は1,955,331百万円、伸び率は1.0%となっています。
注2: 公債費は財政局で一括計上しています。



歳出(支出)合計

1兆9,749億円

(市民一人あたり予算※ 52万3,558円)

※ 令和4年1月1日現在の人口377万2,029人で算出した市民一人あたりの予算額



政治は無関心でいられても無関係ではられないね！
横浜市の現状と将来に関心と理解を深めてみんなで住みやすい・住み続けたい街よこはまを作っていこう！



市民の皆さまの貴重な税金は、人口減少かつ超高齢化が進展する中で、多様化・複雑化する社会問題に対し、迅速かつきめ細やかに対応していくための予算として大切にに使わせていただいています！

地域の皆さまから寄せられた声を市政につなげ、課題解決に向け粘り強く取り組みを進めてまいります！
地域や身の回りのお困りごとやご相談等ありましたら立憲民主党横浜市区議員団港南区政務活動事務所までご連絡ください！

電話 045-353-5723
FAX 045-353-5724